



# 極真への道

第8号

～第4回極真連合杯世界空手道選手権大会特集～

国際空手道連盟 社団法人極真会館 愛媛県戸田道場 機関紙

All Japan Kyokushin Union



## 道場設立5周年 ～この道を信じて歩む～

国際空手道連盟 社団法人極真会館 愛媛県戸田道場  
代表師範 戸田美智男

今年1月に沖縄で開催された第4回極真連合杯世界空手道選手権大会初日2回戦、神原敏行選手はルーマニア選手権大会第3位のアレクサンドム・タナヤ選手との延長戦で、鮮やかな上段廻し蹴りを決め昏倒させての一本勝ち、館内は割れんばかりの大歓声に包まれました。

数試合後に登場した志賀賢一選手はオーストラリア中量級チャンピオンのガイ・トラップ選手と再延長戦となり、試合半ば強烈な踵落としを顔面に入れられたものの、冷静に試合を続け、もみ合いとなり相手が倒れて足を怪我しドクターストップとなり勝利を得たのでした。

この瞬間、愛媛県戸田道場の2人の日本代表選手がベスト16に入り、大会2日目に進むという、かつてない快挙を成し遂げたのです。

私の頭の中は嬉しさで一杯になりながら、組織を立ち上げてからの5年間の様々なことが頭の中をよぎりました。

警察官として、前組織にどうしても残ることができない事件が起こり、県警空手部など3道場100人足らずの小さな規模で極真連合会に加盟したのが平成24年5月のことでした。

それ以降、極真空手創始者の大山倍達総裁の哲学である「勝負偏重主義」を継承すべく、「尊敬、感謝、忍耐」すなわち「押忍」の精神を兼ね備えた「最強の空手」を目指し、「最強求道（くどう）の志」を活動指針の一つとして今日まで活動をしてきました。

設立当初から、他流派を初め多数の大会に選手を出し続けましたが、出る大会出る大会において序盤で負け続け本当に悔しい思いをすると共に、それまでが「井の中の蛙」であったことに気がついたのでした。

打倒極真を掲げ、研究を続けて必死で稽古をしてきた他流派の前では、極真という名前だけでは勝てないということを嫌と言うほど思い知らされました。

悔しさと屈辱の中、何としても選手を強くしたいと考え、合同強化稽古を毎月のように行い、成績の優秀な選手への支援を拡大する等の取り組みを行った結果、徐々に効果が表われ数年前から入賞者が増え続け、今回の世界大会の結果につながったのだと思っています。

今では県内16の道場・組織に増え当初の4倍を超える道場生を有するまでに成長し、今年で5回目を迎える愛媛県大会は、多くの方々の共感を得て選手も毎年増加してきています。

その反面、次代を担う若手選手の少なさや人材、資金等運営基盤の脆弱さなど問題点も多く、飛行機でいえば何とか離陸した段階だと考えています。

今後は、これらの問題を解決して、次の世界大会にも出場できるような強豪選手を育てることと、基本や移動稽古を大切に行いつつ型や武具、部位鍛錬など伝統的な稽古にも力を入れ、さらに元極真会館愛媛支部長であった芦原英幸先生から教示された、投げや掛けなど実戦性のある技の指導にも力を入れていきたいと思っています。

そして、何より道場生が自分の心を平静に保てるようになるために、空手独特の呼吸法を取り入れた「メンタルトレーニング」を指導に生かしていきたいと考えています。

設立5年を期に改めて同じ道を歩む我々に、どうか皆様のご支援をお願い申し上げます。

## 第4回極真連合杯 世界空手道選手権大会 観戦

新居浜中萩道場責任者（師範代） 濱井敦史

「人種、民族、国境を越え、政治、宗教、思想の垣根を越えて、世界人類の平和の実現を目指す」この極真理念の実現こそが世界大会という場ではないでしょうか。

1月21日・22日、空手発祥の地、沖縄にて第4回世界大会が開催されました。世界25か国から選ばれた104名の選手が男子無差別級、女子軽量級、女子無差別級の3階級で頂点を目指します。

わが社団法人極真会館愛媛県戸田道場からも2名の選手が男子無差別級に選ばれ、厳しい稽古をこなして、大会に臨みました。

まず長年愛媛を代表する選手として国内に名の知れた、西条壬生川道場所属の志賀賢一選手は、その風貌や性格から「武士」と呼ばれるほどの人物です。稽古量の多さは尋常ではなく、身体は鋼鉄そのものの、しかしながら性格は超温厚で礼儀正しい近年まれにみる好青年です。年齢的にも今大会にける気持ちは人一倍強かったことでしょう。

初戦、180cm、105kg(実際には申告体重をかなりオーバーしていた)のルーマニアの選手が相手。相手の重たい下段蹴りに臆することなく前へ出ながら、突き、蹴りをバランスよく相手に叩き込みます。判定5-0で危なげなく2回戦に駒を進めました。

もう一人の代表選手は、今治常盤・鳥生道場、松山緑町道場責任者の神原敏行選手。自身の稽古はさることながら、後進の指導にも定評があり、多くの全日本クラスの選手を育てています。決して恵まれた体型ではないものの、巧みな組手技術とガッツで多くの選手から一目置かれている存在です。

初戦は相手選手棄権により、不戦勝でした。傷を負うことなく2回戦に進出です。そして2回戦の相手はルーマニアの強豪選手。序盤から神原選手の右下段回し蹴りが相手選手左足大腿部をとらえます。相手はたまらず距離を置きながら中段回し蹴りや中段突きを連発。そして開始1分6秒に、距離が縮まったところ電光石火の右上段回し蹴りがこめかみをとらえ、相手選手は崩れ落ちるようにマットに沈みました。衝撃的なKOシーンに会場は一瞬静まり、やがて賞賛の拍手が鳴りやみませんでした。神原選手2日目のベスト16に勝ち名乗りです。

さて志賀選手の2回戦の相手は、オーストラリア選手権中級1位の肩書を持つこれもまた強豪です。リーチの長い相手選手を意識し、懐に入りながら突きと下段回し蹴りで圧力をかけていきますが、相手も攻撃の手を休めません。本戦引き分けの判定で延長戦へ入ると、疲れの出てきた相手を徐々に押していきます。優勢に試合を進めましたが、判定は無情にも2-0の引き分けで、志賀選手に不利な体重判定となりました。10kg以上の差で軽い方が勝ちとなります。結果9.6kgの差で再延長戦に突入です。開始早々相手選手の右踵落としが志賀選手の右目を襲いました。片目で戦っている状況ですが、それでも前へ出ます。再度相手が踵落としを出してきたとき、両者もつれ倒れ込みました。志賀選手はすぐ立ち上がりましたが右目を気にしています。ところが相手選手は立ち上がられません。どうやら倒れ込んだ時に左ひざを痛めたようで、試合続行不可能になりました。よって志賀選手の勝利となり、神原選手同様2日目のベスト16に残りました。すごいことです。

激しい戦いを制した志賀選手でしたが、右目の負傷は思った以上に深刻でした。眼底骨折と診断され、次の試合は棄権せざるを得なくなりました。翌日決勝戦を待たずに空路地元愛媛へ帰り即入院生活です。選手生命をかけて出場した志賀選手。次は世界チャンピオン選手との一戦だったので、どんなに悔しかったことでしょう。しかし武士らしく決して敵に後ろを見せない戦いは我々の脳裏に焼き付いております。十分に静養して、また元気な道着姿を見せてほしいものです。

二日目の会場は前日とは打って変わって海外の方であふれんばかりです。ベスト 16 からは体重判定で決着がつかない場合、試割りの成功枚数の多い方が勝者となることから、まず全員試割りを行います。厚さ 2.4 cm の杉板を正拳、足刀、手刀、肘で、それぞれ 3 枚以上重ねて割らなければなりません。

神原選手も大会での試割りはほとんど経験がなく、やや緊張気味でしたが正拳で成功してからは落ち着いた様子でした。その隣で試割りをしている沖縄県支部の喜久山泰道選手が次の対戦相手です。喜久山選手の方が神原選手の試割り枚数を意識しているように感じました。その喜久山選手は神原選手と体格もほぼ同じで、全日本でも常に上位進出している日本を代表する選手です。胴廻し回転蹴りなど多彩な飛び技が得意な難敵です。

3 回戦、気合十分の神原選手が喜久山選手より先に技を仕掛けていきます。喜久山選手の胴廻し回転蹴りも落ち着いて捌いています。本線は一進一退の攻防で判定引き分け。延長戦に入ると喜久山選手の右足内股への鋭い下段回し蹴りが神原選手の体制を崩し始めました。ただ効かされているわけではないので、神原選手も突き、中段回し蹴りで応戦します。最後まで打ち合った両者。喜久山選手は、にくいほどポーカークフェイスを崩しません。それほど差があった試合ではなかったのですが、体制が崩れた印象が判定に響き、0-5 で神原選手の世界大会が終わりました。しかし初出場で、第一線級の選手と互角以上に渡り合えた神原選手の底力は計り知れないものです。

愛媛から世界大会に臨んだ志賀、神原両選手ともベスト 16 という素晴らしい結果で終わりました。そして大きな感動と希望を与えてくれました。愛媛から駆け付けた道場生やご家族、友人の大応援団も彼らの戦いに感動し、希望を見たことでしょう。

さてそのほかの試合でも白熱した熱線が繰り広げられました。準決勝戦の石嶺雄大選手とワールドカップチャンピオン、カザフスタンのティムール・ライムベコヴ選手の試合は全世界に衝撃を与える試合となりました。実力者同士の戦いは手に汗握る見ごたえのある内容でした。本戦やや石嶺選手押し気味も差はなく延長戦へ。延長戦もお互い突き蹴りを互角に出しあい伯仲した試合です。ただ、「押し」の注意と「止めの合図後の攻撃」による注意でカザフスタンの選手に減点 1 が与えられました。その結果判定では石嶺選手優勢勝ちとなります。その判定を不服としたカザフスタンの選手がであろうことか石嶺選手の顔面めがけてハイキックを出しました。石嶺選手はかろうじてかわして反撃します。紅白両サイドからもセコンド陣がマットに駆け上がり、さながら乱闘状態となりました。かりにも武道である空手で、しかもマット上で乱闘騒ぎが起こるとは誰が予想したでしょう。両選手の戦いは非常に見ごたえあるものでしたが、その後の礼節を欠いた行動により、世界大会に不名誉な汚点が残ったことは残念でなりません。その後、1 時間以上にわたり試合が中断し、協議が行われました。5 人の外国人師範と共に審議委員をしていたわが戸田師範が元警察官としての知見を活かし、協議の中心で騒ぎの取集に尽力しておりました。結果は再試合となり石嶺選手判定負けとなりましたが、今度は両者抱き合い、お互いの健闘を称え合って、因縁の試合に一応の幕を閉じました。

決勝戦は準決勝戦で宮崎の実力者重松翔選手を鮮やかな下段回し蹴りで一本勝ちした長田裕也選手と、先ほどのティムール・ライムベコヴ選手です。長田選手が突きと左下段回し蹴りを放てば、ティムール選手は突きから左膝蹴りで応戦します。決勝戦にふさわしく両者一步も譲らない激しい組手です。本線引き分け。延長戦でもお互いに国と国の威信をかけて攻撃の手を休めません。そして判定結果は 4-0 で長田選手優勢勝ちです。死力を尽くして戦いあった両者には惜しみない拍手が送られました。

女子軽量級優勝は山口千怜選手、女子無差別級は石嶺茉央選手と全階級で日本人が優勝し、空手母国の意地を見せてくれました。

乱闘という負の場面がありましたが、これを糧にして今一度大山総裁が目指した極真空手を継承、発展させていかなければなりません。外からの批判は重々承知しておりますが、闘っている選手は皆真剣です。大げさですが命を懸けて戦っております。その選手たちを正しく導くのも極真空手の精神だと思います。

大山総裁の言葉を借りれば「何のために強くなるか？それは自分に打ち勝つためであり義を通すためであり、人を導くためである」

二日間でたくさんの感動と教訓を得ました。これからの人生に生かしていきたいと強く思います。押忍。



志賀選手 2 回戦



神原選手 3 回戦



乱闘事案



審議をする戸田師範等



神原選手試割り



表彰式

## 世界空手セミナー 世界昇段審査に立ち会って

新居浜中萩道場責任者（師範代）濱井敦史

世界大会の二日前、沖縄県武道館において世界空手セミナーが行われるということで、愛媛から戸田師範、杉野師範代、青野先生とともに私も参加いたしました。

そして世界各国から集まった約 80 名の師範や先生方、道場生が田畑、小井両師範の直接指導を受け、稽古を行いました。基本はすべての技を 30 本、上段前蹴りは 100 本、上段回し蹴りは 500 本。最後の方は下段回し蹴りになってしまいましたが、何とか田畑師範の号令について 500 本蹴り切りました。戸田師範も他の高段者の方とともに最前列で蹴っておられました。外国の師範方が号令についていけなくなっても、戸田師範は最後までスピードを緩めず蹴っている姿を見て、私もスピードを緩めるわけにはいかず、歯を食いしばって頑張れました。隣では私よりお年を召した杉野師範代が頑張っておられますし、後ろの列では青野先生が普段通りの大きな気合で、他を圧倒しております。その声に勇気づけられ、頑張れたのも事実です。驚いたのは、田畑師範は自ら号令をかけながらも、最後までしっかり上段を蹴っていたことです。そして移動稽古、型稽古と行い、みっちり 3 時間かけて濃い稽古をつけていただきました。暖かい沖縄とはいえ真冬。道着を絞れるくらい汗をかいた沖縄初日でした。

そして世界大会の翌日、前日の興奮が冷めやらぬ中、世界昇段審査が行われました。高段者の連続組手の相手をさせていただくため、今西師範代、青野先生とともに道着を着て参加いたしました。一番の目的は田畑師範と、七戸師範の 80 人組手の相手ができることです。私も現役時代、七戸師範の全盛期、全日本大会の控室が一緒になったことがあります。間近で見た七戸選手はとても人間とは思えない怖さがありました。そしてセミナーでの田畑師範のすばらしい基本とスタミナ。こんなに素晴らしい方々と審査の相手とはいえお手合わせできるのは、極真空手を続けてきたからこそだと深く感激しております。

昇段審査は年齢、性別に関係なく、基本に忠実に既定の審査項目を淡々とこなしていきます。田畑師範は前日の演武で拳を怪我されておりましたが、そんなことはみじんも感じさせないキレのある動きです。七戸師範は、大きな気合を入れながら技をひとつひとつ確認するように丁寧に行っております。拳立て、腹筋、スクワット各 250 回の審査のころにはかなりの方が、限界を迎えていたように思えました。そして最後の連続組手です。私も海外の師範方や若い女子道場生、第 1 回世界大会ベスト 8 の選手などのべ 30 人ほどの相手をさせていただきました。そして 30 人組手、40 人組手、50 人組手と完遂した受審者が抜けていく中、最後に田畑、七戸両師範ふたりが残りました。すでに体力は限界を超え、精神だけで立っている状態ですが、組手は衰えません。田畑師範と対戦した時にはそのスピードと崩れない姿勢に驚き、七戸師範と向かい合った時には、懐の深さと丸太のような体、腕、足に恐怖を感じました。

そして両名の 80 人組手が終わり、小井師範より合否発表が行われました。田畑、七戸両師範とも合格し八段に昇段です。この年齢で、若い人と同じ審査項目を行い、80 人組手も完遂するという素晴らしい内容に、私は深い感動を受け涙が出そうになります。極真空手を続けていて、こんなに素晴らしい師範方に指導していただけるのは本当に感謝しかありません。このような状態で 7 時間を超える世界昇段審査が幕を閉じました。まさしく「実践なくんば証明されず 証明なくんば信用されず 信用なくんば尊敬されない」でした。

今回のセミナー、昇段審査にお誘いくださった戸田師範に本当に感謝申し上げます。百聞は一見にしかず。何事も経験してこそ身に付くと感じました。押忍。



南米勢と共に



セミナー参加者全員



七戸師範 80 人組手



田畑師範 80 人組手



型稽古



組手の様子

## 第 19 回大洲少年空手道大会観戦記

愛媛県警極真空手部副部長 東 元

平成 29 年 3 月 12 日に、国際空手道連盟社団法人極真会館愛媛県戸田道場の主催、愛媛県警察極真空手道部の運営により、青少年健全育成と非行防止を掲げたヤング 3S 運動・第 19 回大洲少年空手道大会が開催されました。

平成 10 年の第 1 回大会より大洲の地において歴史を重ねており、運営に多数の警察官が携わっている全国的にも稀有な大会であり、今年度は、17 流派、愛媛県以外にも香川県、高知県、広島県の小・中学生が過去最大となる 325 人参加し、組手に加えて 2020 年の東京五輪をも見据えた型の試合が愛媛県戸田道場設立後初めて開催されるとあって、大会スタッフの事前の緊張感は格別なものがありました。

恒例となった勇壮な開会太鼓の後、大洲警察署長、愛媛県警察本部刑事部参事官等の来賓挨拶の後、運営委員長である戸田師範の挨拶、犯罪被害者支援金贈呈を経て、いよいよ型試合の開始。

各コートともにこれまでの稽古の成果を出し切り懸命に演武する選手の姿に観衆が息を潜めて見守る場面が続出し、特に 20 年に及ぶ大洲大会史上初めて、松山盲学校から小学 2 年生初級の部に参加した悠心道場の石丸翔選手が実兄の補助を受けながらコートに立つ姿、演武を立派に完遂し実兄の補助を受けて退場する姿は、観衆の感動を誘わずにはられませんでした。

型の余韻冷めやらぬ中、午後 1 時より開始した組手部門では、厳しい稽古を行ってきた 285 人の精鋭が激突し、セコンドの声援を受けて普段以上の力を出し切り勝ち上がる者、実力を出し切れず判定負けとなる者等様々でしたが、いずれの少年少女も非常に礼儀正しく、勝ち負けを超えたところで健全育成を掲げる大洲大会が続く意義の本質を垣間見た思いでした。

4 時間に及ぶ予選の上、16 部門 32 選手が午後 5 時開始の決勝ラウンドに進み、そこでも実力伯仲の数々の好勝負が繰り広げられ、大会終了後に戸田師範からは、大会レベルが飛躍的に向上している旨の講評を頂きました。

本大会を通じて、組手部門に初参戦した新極真会館所属選手の力強さを目の当たりにしましたが、迎え撃つ形となった愛媛県戸田道場からも多くの選手が上位に進出し、型部門では最多の入賞者を出す等、来たる第 5 回愛媛県大会を見据えて今後更なる選手強化の充実が望まれるところです。

かくして史上最長となった今回の大会ですが、これまでで最も多くのスタッフが運営に参画した本大会は、愛媛県戸田道場関係者の絆を更に強めたものでした。



入賞者



～第19回大洲少年空手道大会結果一覧～

組手の部

学年	1位		2位		3位		3位	
小学1年生	津波古琉喜(常盤)	極真愛媛	西山歩輝(宇多津北)	極真香川	橋田琉叶(日高)	秋山道場	加藤瑞葵(日高)	秋山道場
小学2年生	山下瑞貴(潮江東)	新極真会	山本陸(横浜)	新極真会	山本雄一(桑原)	日本如水	池本斗央摩(大西)	日本如水
小学3年生初級	柏田萌菜(潮見)	国際如水	黒田憲太郎(宮前)	極真愛媛	玉井翼(鳥生)	極真愛媛	杉野心耶(大西)	日本如水
小学3年生上級	松原成到(川島)	極真香川	森翔哉(神田)	新極真会	越智和(立花)	極真愛媛	高木風史(久米)	日本如水
小学4年生女子	森涼葉(神田)	新極真会	高野風亜(木太)	極真香川	宮内莉実(潮見)	悠心道場	小倉花恋(たちば)	正道会館
小学4年生男子初級	石川哲太(中萩)	福田道場	高翔翔晴(中萩)	福田道場	新居田天翔(大西)	日本如水	大崎元(岡田)	道真会館
小学4年生男子上級	田阪瑛音(松前)	道真会館	松井瞭誠(別宮)	極真愛媛	渡部朔蔵(河野)	悠心道場	山下駿(別宮)	極真愛媛
小学5年生女子	北彩花(常盤)	極真愛媛	高橋和莉(多肥)	極真香川				
小学5年生男子初級	中本英宏(日高)	極真愛媛	片上夕晴(松前)	道真会館	井村慎之助(波止浜)	極真愛媛	上森京介(亀岡)	秋山道場
小学5年生男子上級	植野元太(角野)	福田道場	尾上仁勇(国分寺北)	極真香川	福岡光太(たちばな)	極真愛媛	石井仁(高松第一)	極真香川
小学6年生女子	菊川真莉紗(近見)	極真愛媛	松岡優奈(大西)	日本如水				
小学6年生男子初級	加藤光晟(日高)	秋山道場	橋本零哉(宮前)	友心館				
小学6年生男子上級	山下凌(別宮)	極真愛媛	神原徹太(吹揚)	極真愛媛	石川颯哉(船木)	福田道場	菊川慎(波方)	日本如水
中学生女子	徳井琴子(三津浜)	日本如水	近藤さやの(鴨川)	極真愛媛				
中学生男子軽量級	松井弥陸(日吉)	極真愛媛	高野陽(玉藻)	極真香川	黒光泰樹(西)	拳武道会	上森勇大(今治東)	秋山道場
中学生男子重量級	三上汰明(久米)	新極真会	辻岡学人(高知大附属)	新極真会				

型の部

学年	1位		2位		3位		3位	
小学1年初級	瀧田蓮(神郷)	極真愛媛	村上晴紀(潮見)	極真愛媛	清水ひより(大西)	日本如水	仙波優佳(潮見)	極真愛媛
小学1年上級	池内琉星(清水)	極真愛媛	中本陽夏乃(下灘)	吉村道場				
小学2年初級	佐藤文太(伊台)	新極真会	東悠樹(東雲)	極真愛媛				
小学2年上級	寒作円(清水)	極真愛媛	真鍋瑛太(神郷)	極真愛媛	福岡陽澄(たちばな)	極真愛媛	飯田環茄(久米)	道真会館
小学3年初級	玉井翼(鳥生)	極真愛媛	河村夏花(堀江)	悠心道場	関岡すみれ(生石)	悠心道場	宮野琉緯(鳥生)	極真愛媛
小学3年上級	結城一政(郷原)	極真広島	大戸理央(平城)	月心塾	溝本吟(下黒瀬)	極真広島	小澤叶夢(富田)	極真愛媛
小学4年初級	八木幸保(別宮)	極真愛媛	佐藤ひより(伊台)	新極真会	向井風貴(湯築)	新極真会	岡田友那(伊台)	新極真会
小学4年上級	田阪瑛音(松前)	道真会館	都築理乃(久米)	道真会館	宮内莉実(潮見)	悠心道場	池内大和(一宮)	極真香川
小学5・6年初級	俊野彩樹(たちばな)	極真愛媛	渡辺輝良々(近見)	極真愛媛	白石妃菜(神郷)	極真愛媛		
小学5年上級	福岡洗大(たちばな)	極真愛媛	金久速(湯山)	新極真会	角藤大晟(桑原)	新極真会		
小学6年上級	菊川真莉紗(近見)	極真愛媛	広瀬愛真(長尾)	極真香川				
中学生初級	三宅愛(北郷)	極真愛媛						
中学生上級	西岡虎太郎(宇和島南)	吉村道場	杉本征彦(勝山)	新極真会				

## 第5回 愛媛県戸田道場交流大会

5回目を迎えた「交流大会」は昨年12月11日(日)丹原体育館で開催され、前回より出場者が大きく増えて150人の大台に乗り、なかなかの規模になってきました。

組手試合が底辺拡大のために、過去3年間のオープンな大会入賞者が出場できない規定とされているが、この人数となったことは4年前の第1回大会の出場者が60人足らずであったことと比べると、組織が大きくなったことが実感されました。

午前中行なわれた型試合は、幼年を初め7つのカテゴリーに分かれて実施されたのですが、全体的に昨年度より技の切れが増し上達していることが見て取れました。

午後の組手試合では、勝ち上がる選手は年間を通じての合同強化稽古の成果が表れ、飛躍的に実力が付いていると思われました。

多くの道場生や保護者の皆さんは、選手達が大地に蒔いた種のように芽を出し、水と太陽の光を浴びて成長し大きな花を咲かせつつあると感じたのではないのでしょうか。

ただし、中学生以上の若者の出場者が少なく、又事件事故で稽古に支障が多い県警空手部員が、一般部の3階級優勝を占めたことで選手層の問題点が浮き彫りになったのでした。

～結果一覧～

型の部

	幼年	低学年初級	低学年上級	高学年初級	高学年上級
優勝	岩城斗也(西条)	玉井 翼(波方)	寒作 円(本部)	八木幸保(波方)	山下 凌(常盤)
準優勝	田村英誉(味酒)	木村壮真(波方)	真鍋瑛太(新警)	神原優花(常盤)	菊川真莉紗(波方)
3位	戒居虎太郎(味酒)	渡部 葵(波方)	清水航一郎(本部)	俊野彩樹(空港通)	松井瞭誠(常盤)
4位	黒田さくら(味酒)	白石悠翔(川東)	福岡陽澄(本部)	渡部輝良々(波方)	高瀬 晴(西条)

	一般女子	一般男子
優勝	三宅 愛(波方)	玉木一正衛(大洲)
準優勝		丹下英人(県警)
3位		村上哲也(県警)
4位		藤堂 巡(本部)

組手の部

	幼年	小学1年	小学2年	小学3年
優勝	戒居虎太郎(味酒)	津波古琉喜(常盤)	東 悠樹(本部)	越智 龍(新居浜署)
準優勝	岩城斗也(西条)	井上元秀(常盤)	清水航一郎(本部)	小澤叶夢(西条)
3位	浦戸龍之介(味酒)	神原杏菜(常盤)	林 修作(本部)	池田翔真(常盤)
3位	松井瞳依(常盤)	瀧田 蓮(川東)	伊藤銀河(本部)	黒田憲太郎(味酒)

	小学4年男子	小学5年男子	小学6年男子	小学5・6年女子
優勝	河田佳晃(本部)	久保幸輝(大洲)	高瀬 晴(西条)	渡部輝良々(波方)
準優勝	秦 友輝(川東)	井村慎之介(波方)	矢野 仁(波方)	
3位	八木幸保(波方)	林 建作(本部)	山下凌平(大洲)	
4位	高瀬 快(西条)	福岡優斗(本部)	池川晃太(川東)	

	中学男子	中学女子	高校男子	壮年	一般初級	一般上級
優勝	水戸川琉希(波方)	中本旨音(常盤)	藤堂巡(本部)	石崎洋一(県警)	福岡嘉洋(県警)	丹下英人(県警)
準優勝	渡部 晶(波方)	三宅 愛(波方)			白石将博(川東)	田中雅志(常盤)

## 栄えある入賞者(平成 28 年 10 月以降)

勇気を振り絞って試合に出る。それは大山総裁が常に言われていた「敵に背中を見せない」という言葉を体現することではないだろうか。

必死で稽古をして臨んだ大会。勝敗の結果がどうであろうと、「勇者」の称号を与えたい。

- 第 19 回愛媛県少年空手大会(10/9 伊予市 正道会館主催)  
優勝 東悠樹(小2 チャレンジクラス 本部)
- 第 33 回全日本拳武道大会(10/30 新居浜市 拳武道会館主催)  
優勝 津波古琉喜(小1)、2位 井上元秀(小1)、北光希(小2)、3位 北彩花(小5 女子)  
優勝 松井弥陸(中学軽量級)、優勝 國本明佳(一般女子)～以上常盤
- 全中四国交流大会(11/13 高松市 極真桑島道場主催)  
優勝 津波古琉喜(小1 常盤)、2位 北光希(小2 初級 常盤)、2位 福岡陽澄(小2 中上級 本部)、2位 越智和(小3 中上級 常盤)、優勝 松井瞭誠(小4 中上級 常盤)、優勝 北彩花(小5 女子 常盤)、優勝 菊川真莉紗(小6 女子 波方)、3位 鏡原琢矢(小6 男子中上級 常盤)、優勝 近藤さやの(中1 女子 本部)
- 第 25 回全日本拳剛会館大会(11/20 四国中央市 拳剛会館主催)  
優勝 岡裕人(幼年 本部)、2位 戎居虎太郎(幼年 味酒)、優勝 越智和(小3 上級 常盤)、2位 山下駿(小4 男子上級 常盤)、優勝 神原雅斗(小5 男子上級 常盤)、優勝 濱井敦史(壮年 川東) 特別賞南海放送賞 岡裕人(幼年 本部)
- 第 16 回全四国錬成大会(12/4 愛媛県武道館 新極真会主催)  
優勝 北彩花(小5 女子上級 常盤)、2位 扇山明直(小5 男子中級 波方)、3位 神原雅斗(小5 中級 常盤)、2位 松井弥陸(中1 男子上級 常盤)、優勝 國本明佳(一般女子 常盤)
- 第 3 回兵庫県大会(12/18 西宮市 極真琉道会主催)  
2位 津波古琉喜(小1 初級)、優勝 北彩花(小5 女子)、優勝 松井弥陸(中学男子)～以上常盤
- 大阪冬の陣(12/23 大阪市 関西総本部主催)  
優勝 北彩花(小5 女子 常盤)
- ローズカップ大会(1/29 福山市 志琉会主催)  
優勝 津波古琉喜(小1)、2位 井上元秀(小1)、優勝 神原雅斗(小5 男子)、2位 山下凌(小6 男子)～以上常盤
- 広島親善交流試合(2/26 東広島市 極真宗政道場主催)  
型の部 2位 清水航一郎(小2 本部) 組手の部 3位 津波古琉喜(小1 常盤)、3位 東悠樹(小2 本部) 3位 北光希(小2 常盤)、優勝 北彩花(小5 女子 常盤)、2位 近藤さやの(中学女子 本部)
- 全日本格闘技拳法大会(3/19 坂出市 無門塾主催)  
2位 東悠樹(小2 初級)、3位 清水航一郎(小2 初級)～以上本部
- 第 34 回全四国大会(4/16 高知市 新極真三好道場主催)  
2位 山下駿(小5 男子上級)、優勝 神原雅斗(小学5年男子中級)、優勝 山下学(壮年40歳～45歳)～以上常盤
- 第 18 回近県少年拳武道大会(4/16 西条市 拳武道会館主催)  
優勝 岡裕人(小1 本部)、北彩花(小6 女子 常盤)
- 第 6 回絆杯空手道選手権大会(4/23 福山市 武煌会館主催)  
優勝 神原雅斗(小5 男子初級・常盤)、北彩花(小6 女子上級・常盤)

## 第 22 回全日本少年少女空手道大会(グランドチャンピオン大会)出場者の決意

未だに優勝の一文字にたどり着けない代表選手たち。今年こそは、せめて入賞者が出てくれることを期待したい。

◆國本明佳（高校生女子の部）  
絶対優勝を目標に頑張ります。



◆松井弥陸（中学生軽量級）  
一つでも多く勝って優勝します。



◆山下凌（中学1年軽量級）  
実力を発揮し優勝できるように頑張ります。



◆北彩花（小学6年女子）  
スピードとパンチを強化して攻めまわります。



◆松井瞭誠（小学5年生男子）  
全試合、技有りで優勝します。



◆岡裕人（小学1年生）  
初めての全国大会になります。強い選手がたくさんいると思いますが、最後まであきらめず戦いたいです。



## 平成 29 年度強化選手指定

1月7日(土)に道場責任者会議を開催し、本年度の強化選手A及び同Bの選考を行った。

強化選手Bについては、今までは極真会館主催大会で4位以上、他流派の大会では2位以上の成績を年間2回以上取ることを条件としていたが、本年から選手のモチベーションを高めるために、他流派の大会(初級は除く)は4位以上、部内交流大会、各大会の初級の部の優勝者も入れることに条件を緩和したことから、昨年より5人多く指定された。

なお、昨年指定された選手のうち5人が条件に満たなかったことから指定解除された。

◆強化選手A 越智和(小4男子 常盤 新規)、松井瞭誠(小5男子 常盤 継続)、北彩花(小6女子 常盤 継続)、菊川真莉紗(中1女子 波方 新規)、山下凌(中1男子 常盤 新規)、近藤さやの(中2女子 本部 継続)、松井弥陸(中2男子 常盤 継続)、國本明佳(高校女子 常盤 継続)、神原敏行(一般男子 常盤 新規)、志賀賢一(一般男子 西条 継続)

◆強化選手B 岡裕人(小1男子 本部 新規)、戎居虎太郎(小1男子 味酒 新規)、津波古琉喜(小2男子 常盤 新規)、井上元秀(小2男子 常盤 新規)、北光希(小2 常盤 継続)、寒作円(小3男子 本部 新規)、東悠樹(小3男子 本部 新規)、越智龍(小4男子 新居浜署 新規)、山下駿(小5男子 常盤 新規)、福岡洸大(小6男子 本部 新規)、神原雅斗(小6男子 常盤 継続)、神原僚太(中1男子 常盤 新規)、丹下英人(一般男子 県警 新規)

強化選手Aに指定される条件～極真会館が主催するグラチャン権利大会、もしくは極真会館が主催する指定大会で2位以上をどちらか一方か組み合わせて年2回入賞すること。(指定大会 大洲少年大会、中四国交流大会)

支援 合宿、極真会館主催大会出場料を全額支給、全国大会の旅費一部支給

### 強豪列伝 ～今治常盤道場 國本明佳選手～

軽やかなステップを踏みながら繰り出すパワーとスピード溢れる突きと蹴りで、相手を圧倒し、愛媛県大会3連覇を成し遂げた強者。得意技は電光石火の上段廻し蹴り。何より彼女の名前をフルコンタクト空手界に広めたのは、昨年10月に開催された「第33回全日本拳武道選手権大会」決勝で当たった石嶺茉央選手に延長戦を体重判定で優勝を勝ち取ったことであろう。

石嶺選手は兵庫県琉道會館道場、長田保師範の秘蔵っ子、近年あらゆる大会の優勝を総なめにし、今年1月の第4回世界大会女子重量級でも外国人相手に圧倒的な強さで勝ち上がり、優勝の栄冠を手にした超有名選手である。

その選手を体重判定であるとはいえ、破った國本選手の名前が広く知れわたったのであった。

高校最後の今年、4連覇をかけて愛媛県大会に臨むが、その前にフルコン空手流派の7割が加盟するというJFKO(全日本フルコンタクト空手道連盟)選手権大会と連合会主催のグランドチャンピオン大会が待ち受けている。過去、彼女も勝ち上がることが出来なかった2つの大会が大きく前にそびえ立つ。この壁を乗り越えることができれば、師匠の神原敏行先生と同じ世界大会の舞台に立てる予感がする。



## 時の人

### 「9歳で「防災士」取得 最年少タイ 本部道場 二宮快地4級」

地域の防災リーダーとして活動する防災士の資格取得試験に、昨年11月に本部道場の二宮快地君（当時高浜小4年）が合格し愛媛県初の「小学生防災士」となると共に、9歳での取得は2015年2月に9歳で取得した女兒と全国最年少タイ記録となります。

二宮君のお爺さんも防災士で、お父さんは松山市消防局職員で防災士であり、幼い頃から防災訓練などで2人の活躍に触れ、自分も役立ちたいと思うようになり、小学3年生で初受検しましたが不合格となり、昨年は「絶対に合格する」と300ページ以上ある教本を毎日読み込み、念願の合格を果たしました。

極真空手の稽古もほとんど休まずに通い、前回の昇級審査で緑帯になったばかりで、文武両道のその姿は道場生みんなの見本となります。



### 「マーじゃん日本一（高段者競技大会） 三津道場 烏谷伸初段」

4月に開設したばかりの三津道場責任者の烏谷伸初段は、昨年7月に仙台市で開催された、マーじゃん高段者の日本一を決める「第11回全日本高段者麻雀競技大会」（全国麻雀段位審査会主催）で初出場ながら愛媛県人として初めて優勝しました。

大会史上最多の248人がグループを替えながら6戦し、大会初の6戦で1位を記録して優勝し6段に昇段したのです。

烏谷先輩は大学1年の頃にマーじゃんを初め、仕事の関係でしばらく休んでいましたが「お金を賭けない、煙草を吸わない、酒を飲まない」の「3ない」を掲げる健康マーじゃんに触れて再開し、楽しみながら続けてきて今回栄冠を得ました。

烏谷先輩は「極真空手の修行で身に付けた集中力のお陰で優勝できました。」と語り、今後、自己の修行と合わせ、現在楠田正志2段と指導中の三津道場の発展を目指しています。



（三津道場の道場開きで戸田師範よりミットを受け取る烏谷先輩）

# トピックス

## 10月・2月昇級審査

昨年10月10日に愛媛県武道館副道場で実施された昇級審査には64人が、今年2月11日に坊ちゃん球場スポーツフロアでの同審査には56人が受審しました。

どちらの審査も新たに1級、2級に昇級した道場生が5名おり、黒帯にあと一歩と近づいた人が増えました。

### 【10月10日】

#### 少年部

- ◆1級 山下凌(常盤) ◆2級 松井弥陸(常盤)・菊川真莉紗(川東)
- ◆3級 村上彪人(川東)・池川晃太(川東)・松井瞭誠(常盤)
- ◆4級 扇山明直(波方)・水戸川怜斗(波方)・北彩花(常盤)・西村朔(大洲)
- ◆5級 大西颯(西条)・高瀬快(西条)・鏡原琢也(常盤)・山下駿(常盤)・垣本啓太(波方)・寒作円(本部)  
福岡陽澄(本部)・山下凌平(大洲)
- ◆6級 越智和(常盤)・北光希(常盤)・八木幸保(波方)・林修作(本部)・伊藤銀河(本部)
- ◆7級 津波古琉喜(常盤)・石村楓真(波方)・清水航一郎(本部)・伊東千晃(味酒)・池内琥星(味酒)・福井龍悶(大洲)・水本知希(大洲)
- ◆8級 安藤秀虎(川東)・東優伸(常盤)・井上元秀(常盤)・井村慎之介(波方)・渡部琉偉(波方)・濱本太陽(波方)・玉井翼(桜井)
- ◆9級 合田龍生(川東)・瀧田凜(川東)・渡部美理愛(波方)・鷲宥介(西条)・宮野琉緯(常盤)・菊川愛翔(波方)・西村匠平(味酒)・片山和泰(大洲)
- ◆10級 合田蒼甫(川東)・瀧田蓮(川東)・岩城斗也(西条)・日高大輝(常盤)・廣瀬雅人(波方)・廣瀬怜生(波方)・柚山晴輝(波方)・西村健吾(味酒)・黒田さくら(味酒)・荒巻優翔(空港通り)

#### 一般部

- ◆2級 菊川姫梨(波方)・福井天翔(大洲)
- ◆4級 近藤大(川東)・三宅愛(波方)
- ◆6級 一色充(空港通り)・濱田晋太郎(本部)
- ◆9級 荒牧基尚(空港通り)・村上哲也(県警)

### 【2月11日】

#### 少年部

- ◆2級 曾我部立樹(川東)・日野洸誠(大洲)
- ◆3級 藤本一輝(新居浜署)・富岡優斗(本部)・河田佳晃(本部)
- ◆4級 真鍋武琉(新居浜署)・鏡原琢矢(常盤)・神原雅斗(常盤)・二宮快地(本部)
- ◆5級 秦友輝(新居浜署)・池田翔真(常盤)・渡部輝良々(波方)
- ◆6級 真鍋瑛太(新居浜署)・小澤叶夢(西条)・俊野彩樹(空港通)・相原海斗(空港通)  
大野花菜(空港通)
- ◆7級 東悠樹(本部)・菊池涼粹(大洲)

- ◆8級 白石妃菜（川東）・中本昇応（常盤）・中本英宏（常盤）・河上景亮（常盤）・井村隆之介（波方）・吉川誠真（本部）・沖 芽生（味酒）・大森夢叶（空港通）・村上咲弥（空港通）・神原杏菜（常盤）
- ◆9級 竹内佑生（味酒）・宮本武弦（本部）・畠岡慎一（大洲）
- ◆10級 杉野楓馬（西条）・高瀬壮（西条）・重松陸人（常盤）・橋本夏輝（波方）・岡崎椰岐（波方）・武内優奈（波方）・中山空（波方）・岩田琉芭（波方）・村上一琉（本部）・村上晴紀（本部）  
浦戸龍之介（味酒）・村上驍（空港通）・上田悠晴（空港通）・大森陽智（空港通）

一般部

- ◆1級 武内悠大（波方）・久保晴輝（大洲）
- ◆2級 白石理沙（西条）
- ◆4級 新田恭一朗（本部）・右近勝夫（本部）
- ◆7級 大河百叶（常盤）・白石将博（川東）・中本旨音（常盤）・村上哲也（県警）・國本真未（常盤）



## 県警空手部合同稽古・懇親会

極真会館戸田道場内で最も忙しい組織、それが「愛媛県警極真空手道部」である。

毎日起こる事件や事故の対応で休日、夜間も出勤することが多く、いったいいつ稽古しているのと思われながら、先日行われた部内交流大会で一般上級、一般初級、壮年の3部門全ての優勝を独占。

そんな部員が一同に集まる「合同稽古」が1月15日日曜日に本部道場で行われた。

監督の楠田正志2段が基本の指導を行い、その後戸田師範がミット稽古と、犯人補足に重要な投げ、掛けの稽古を体験談に交えてじっくりと指導した。

実際に凶悪犯と対峙するケースが想定される部員一同は、実に真剣に稽古に取り組んだ。

夜は席を東京第一ホテルに変えて、空手談義に花を咲かせつつ杯を重ね、親交を更に深めた。

## 寒行稽古

1月8日、波方道場主催の寒行が波方町大角海岸で行われました。天候はあいにくの雨でしたが持ち前の極真精神で多くの道場生が参加しました。

海岸をランニングして体を温め海に入り、元気よく気合いを入れた突きを数百本行いました。普段より厳しい寒行となりましたが参加した道場生は「寒かったけど楽しかった。」「来年も参加したい。」と話していました。参加した道場生は寒行に参加した意義を深く感じ極真精神を学ぶ事ができました。





## 冬合宿

2月4日・5日(土・日)に極真会館愛媛県戸田道場の冬合宿を大洲青少年交流の家にて行い、約100人が参加しました。

1日目は1月に開催された世界大会の愛媛県勢の活躍や決勝戦をDVDで鑑賞し、師範の講話をいただき2時間半の厳しい稽古を行いました。

2日目は早朝5時半から眠気と寒さに負けず早朝稽古を行いました。朝食後は皆が楽しみにしていたウォークラリーの予定でしたが、あいにくの雨で室内での稽古の他、長縄跳びやドッチビーなど道場対抗ゲームに変更になりました。しかし、道場対抗でゲームは大いに盛り上がりました。

## 新たに3道場開設

平成29年3月4日に濱井敦史師範代が責任者となり「新居浜中萩道場」を開設しました。また、3月7日には神原敏行(2段)が責任者となり「松山緑町道場」を開設、4月1日には楠田正志(2段)と鳥谷伸(初段)が責任者となり「松山三津道場」を開設しました。



戸田師範からミットを受け取る濱井師範代

### 新居浜中萩道場 道場開き



### 松山三津道場 道場開き



レトロな三津道場

## 松山緑町道場 道場開き



多くの松山の道場生が駆けつけてくれました！

## 滝 行

2月19日、波方道場主催の滝行を行いました。滝行は滝に打たれる中では雑念が湧く余裕もなく、また自然と一体になることができる修行の一つです。精神修行の一環として、また、無病息災を祈念して、毎年、行っている本稽古。今年は愛媛マンダリンパイレーツの新入団生が5名参加しました。

愛媛マンダリンパイレーツの選手達は戸田道場の道場生に負けない元気を見せて、「これから始まるシーズンに向けて身も心も引き締まりました。」とお話していました。



## 演 武

4月15日、愛媛マンダリンパイレーツの愛媛開幕戦にて演武をさせていただきました。坊ちゃんスタジアムには約2000人の観客が注目する中、戸田道場生約60人が演武を行いました。愛媛マンダリンパイレーツと極真会館愛媛県戸田道場は「愛媛をスポーツと武道で盛り上げる！」のためこれからもお互いに尽力していきたいです。



## 菊間合同強化稽古

4月30日（日）に極真会館愛媛県戸田道場合同強化稽古を行いました。県下から少年部から一般部までの道場生約60人が参加しました。神原監督のもと、走り込み、ミット、スパーリング等の稽古を行いました。神原監督は、この強化稽古は自己鍛錬の場であると同時に自分の稽古の成果を発揮する場として欲しいとお話していました。今後月に1回のペースで実施予定です。



## 道場紹介(松山味酒道場の巻)

今回は松山市の味酒地区の味酒道場を紹介いたします。味酒地区は十五万国の城下松山の西部に位置する城下町です。味酒道場はその味酒地区の公民館にて毎週土曜日の朝10時から12時の間で活動しています。

当道場は、まだ設立5年目の道場であるため、白帯～青帯中心で、幼児や小学生が多い道場です。しかし、だからこそ基礎の大切さを深く追及できるとともに、戸田師範の教えられる武道教育の諦めない心、挑戦する心「必死の力、必死の心」をしっかりと伝えられると思っています。

味酒地区は「チャレンジ味酒」というスローガンを掲げ、「挑戦すること」を大切にしている地域です。我々の目指す武道教育と地域の考えとが共感しているのではないかと思います。

味酒道場では、極真会館愛媛県戸田道場におけるこの教育理念が広まることのできるよう、今後とも力の限りを尽くします。



今後の主な行事予定

「第5回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会」平成29年7月17日(月・祝)  
愛媛県武道館主道場にて開催

戸田道場行事	他道場行事
6月4日:昇級審査(坊ちゃん球場スポーツフロア2)	6月18日:2017瀬戸内ジュニア・空手道リーグ戦 (秋山道場主催)
7月17日:第5回オープントーナメント 愛媛県空手道選手権大会(愛媛県武道館主道場)	6月24日:第22回全日本少年少女空手道選手権大会
9月:秋合宿	6月25日:第33回全日本ウエイト制空手道選手権大会 (極真会館関西総本部主催)
10月:昇級審査	
12月:第5回戸田道場部内交流試合	